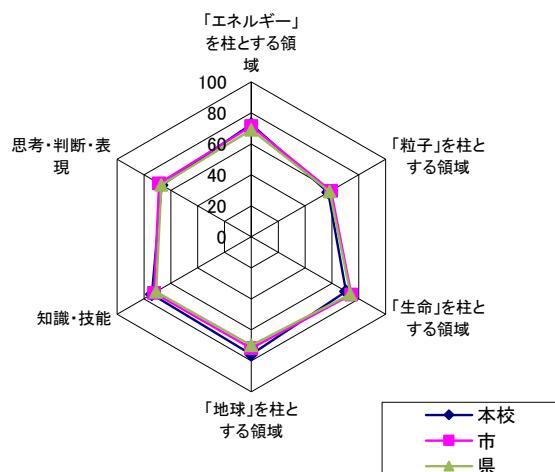


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【理科】分類・区別別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.6	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	57.2	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	70.5	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	75.9	72.0	70.1
観点	知識・技能	74.1	72.5	70.9
	思考・判断・表現	66.8	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均と比べて高い。 ○3人以上で糸電話を使うときの音の伝わり方を考える設問は、市の平均正答率を13ポイント上回っている。 ●缶を削った時に明かりがつかかを考える設問は、市の平均正答率を4ポイント下回っている。	・実験をする際に、既習の学習内容と関連付けながら結果を予想させることで、発展的に考える力を高められるようにする。 ・実験結果を適切に表しているグラフを選ぶ設問の正答率が低いことから、情報機器を効果的に利用しながら結果を表やグラフでまとめ、その傾向を話し合う場面を設けるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。 ○体積を同じにした時のものの重さについて考える設問は、市の平均正答率を2ポイント上回っている。 ●同じ物質(粘土)で形が変わった時の重さについて考える設問は、市の平均正答率を約4ポイント下回っている。	・基本的な知識は身についているものの、複数の知識を結び付けて考えたり、発展的に考えたりすることに、課題が見られる。児童がどのような場面で混乱しやすいかを分析し、話し合いや具体物操作の場面を、設けられるようになる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均と比べて低い。 ○モンシロチョウの体のつくりや育ち方について考える設問では、市の平均正答率と同等である。 ●モンシロチョウとトンボの育ち方の違いを説明する問題では、市の平均正答率を約3ポイント下回っている。	・他の生物との違いを比較したり分類したりすることに苦手意識が見られる。観点を明確にしながら、違いを表にまとめたり図に表したりする活動を設けることで、正しく分類する力を高められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均と同等である。 ○方位磁針や温度計の正しい使い方などの実験に必要となる技能についての設問は、市の平均正答率を上回っている。 ●日なたと日かけの温度の違いを比べる設問は、市の平均正答率を上回っているものの、誤答も見られた。	・質問紙的回答で『理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。』の設問に対する肯定割合が低いことから、理科で学習したことを日常生活につなげて考える機会が少ないことがうかがえる。理科の授業だけでなく、普段の学校生活でも気温や天気などに触れる場面を設けることで、実生活に結び付けながら考える力を高められるようにする。